

『先行研究・事例を調べ尽くそう』

前回までの授業で、「問い」を立てる&深めるトレーニングを行ってきました。今回からは「調べる」です。問いを深め、研究の対象になり得るものにするためには、様々な疑問を調べたり、先行研究・事例を調べ、活用したりすることが必要不可欠です。研究のクオリティはどれだけの先行研究・事例を調べ、理解しているかで大きく変わります。今回のトレーニング②が終わると、いよいよグループです。今回からの授業で、調べる力をつけるとともに、各自の「問い」に関する先行研究・事例を調べ尽くし、研究に対するビジョンを鮮明にしていきましょう。

授業を通して身に付ける能力・態度		A (使える)	B (できる)	C (わかる)
		目指すべきレベル	概ね満足なレベル	クリアすべきレベル
①知識	知識を活用し、Outputする力	学習内容を学ぶ意義と価値を理解している。	学習内容に関わる概念を形成している。	学習した知識を身に付けている。
③思考力	課題の設定から解決まで考え続ける力	課題設定と解決までのプロセスを繰り返すことができる	課題解決の詳細な手だてを設定することができる。	課題を考えることができる。

1 先行研究・事例を探す方法 メソッド p.58～59 参照

<代表的な Web サービス>

活用場面	サイト名・URL	特徴
先行研究 (学術論文)を調べたい	CiNii Articles https://ci.nii.ac.jp	主に日本で出版された学術論文や図書、雑誌に関する学術情報データベース。日本(語)に特化した内容を調べる場合は、非常に有効である。
	Google Scholar https://scholar.google.com	学術専門誌や論文、書籍、要約など、さまざまな分野の学術資料を検索できる。幅広い研究者が利用しており、対応言語も多い。
	J-STAGE https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja	科学技術振興機構(JST)が運営し、日本の発行物検索に優れる。トップページの検索窓からフリーワード検索ができ、絞り込みやすい。
貯蔵されている書籍・資料を見たい	アンドラデジタルアーカイブリンク https://andla.jp/da/	大学・大学院や公共図書館、官公庁、企業・法人、博物館・美術館などが公開している書籍や美術品などのデジタルアーカイブが掲載されている。
	リサーチ・ナビ(国立国会図書館) https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi	政治経済・社会科学・人文科学・自然科学など、テーマや各種資料ごとに、調査のポイントや参考になる資料、便利なデータベースなどを紹介しています。

国や地域の さまざまな 統計データ を調べたい	RESAS https://resas.go.jp/	産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム。官民間わず効果的な施策の立案・実行・検証のためなどに広く利用されている。
	総務省統計局 https://www.stat.go.jp/	国勢調査、人口推計、消費者動向指数など日本や世界に関する、さまざまなデータにアクセス可能。
	e-Stat https://www.e-stat.go.jp/	日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト。時系列や地域など日本に特化したデータに有効。

補足:情報を集めるときの注意点 メソッド p.160～163 参照

Point！ 情報の信頼性(確実性)

「問い」を立てたり、「問い」の答えを調べる際に書籍やインターネット等を活用して、様々な情報を集めます(「情報の集め方」についてはメソッド p.160～163 を参照)。
このとき、どんな情報でもよい訳ではなく、以下の点に注意して情報を収集しましょう。

①信頼性の高い情報源を活用する

高 公的機関や企業の出版物・HP、大学の論文 etc



低 Wikipedia、Web 掲示板、個人のブログや SNS

★簡単に編集できてしまう情報源は活用しない

②複数の情報源で確認する

・同じデータや根拠に基づいていても、解釈や立場によって記載が異なる場合があります

・「検索上位」≠「信頼性が高い」

★同じ内容を複数の書籍や HP 等で確認する

2 先行研究・事例を読んで、その研究について表にまとめよう

メソッド p.61 参照

まとめ方のポイント



《a》 この研究が明らかにしたい問いや研究の目的は何か？

多くの論文や書籍などには、「問い」という表記での記載はないものの、研究を通して明らかにしたこと（リサーチクエスション）や研究の目的を設定して書かれています。どのようなリサーチクエスションや目的が設定されているのかを読み解きましょう。

《b》 どのような研究方法を用いているか？

課題研究では、リサーチクエスションに対する答えを検証するために、適した研究方法を探し、実行しなければなりません。先行研究・事例では、どのような研究方法を用いて、リサーチクエスションの答えにたどり着いているのかに着目しましょう。また、自然科学に関する研究においては、試薬や器具、実験手法と合わせて実験の原理・理論についても理解を深めましょう。

《c》 どのような結果が出たか？

《d》 この研究から学んだことは何か？

研究結果に限らず、この研究に触れることで知り得た事実や、理解が深まった点をまとめておこう。

《e》 この研究に対する疑問点 この研究の不足事項は何か？

先行研究・事例から生まれた疑問、まだ明らかにされていない点から「問い」が生まれてきます。先行研究・事例を鵜呑みにせず、疑問点や不足事項を見つけよう。

・何か感想があれば書いておこう

・「出典」を書いておこう この研究をまた参照したいときに必要な情報であるし、自らの研究の参考文献としてポスター等に載せるときも必要である。

- ・プリント左面及びメソッド p.61 を参考に、先行研究・事例についてまとめ、この研究に触れて分かったことを整理しよう。

先行研究・事例のタイトル
有酸素運動が英単語暗記に及ぼす影響の確認
《a》 この研究が明らかにしたい問いは何か、この研究の目的は何か？
《b》 どのような研究方法を用いているか？
《c》 どのような結果が出たか？
《d》 この研究に触れたことで何を学んだか
《e》 この研究に対する疑問点 この研究の不足事項は何か？
感想など
出典

「問い」のキーワード
先行研究・事例のタイトル
《a》 何を明らかにしたいのか、どのような目的で行っているのか？
《b》 どのような研究方法を用いているか？
《c》 先行研究・事例から学んだことは何か？
《d》 先行研究・事例への疑問点、不足事項は何か？
《e》 そのほか感想など
出典

<情報をまとめた後のふりかえり>

集めた先行研究・事例は、下記のどれに当てはまるでしょうか？

①自分の「問い」に関連する先行研究や事例を見つけられなかった

➡可能な限り複数の種類の先行研究や事例を探そう。先行研究や事例が見つからなかった場合は、メソッド p.160～161 を参考に検索方法を変える、日本語から英語に変換するなどキーワードを見直す、もしくは検索サービスを変更するなどしましょう。

②先行研究や事例について学んだが、理解が難しかった、もしくは理解できない部分があった。

➡自分の研究においても似たような問題が生じる可能性があります。理解できなかった部分は自分の研究にどのような影響があるかを確認しましょう。言葉の意味や定義が不明であるなど、根本的な見直しが必要な場合は、まずは正しい



つ

知識を理解することから始めましょう。特に自然科学系においては、研究分野の原理原則を理解せずに内容を理解するのは困難です。教科書や資料集から調べ、分からない内容は教科の先生に質問してみましょう。

③先行研究や事例でほぼ同じことが実行されていた。

- ➡先行研究や事例にて不備や自分の研究と異なる点があったら、その影響を考え、自分の研究の意義を新たに見いだせた場合は、その点を強調する形で研究を実行しましょう。先行研究や事例で自身の「問い」が解決してしまう場合は、改めて「問い」を立てることからやり直しましょう。